

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成24年8月10日

**【四半期会計期間】** 第72期第1四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

**【会社名】** 日機装株式会社

**【英訳名】** NIKKISO CO.,LTD.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 甲斐敏彦

**【本店の所在の場所】** 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号

**【電話番号】** 03 - 3443 - 3711 (代表・番号案内)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 中村 洋

**【最寄りの連絡場所】** 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号

**【電話番号】** 03 - 3443 - 3711 (代表・番号案内)

**【事務連絡者氏名】** 取締役 中村 洋

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第71期 第1四半期 連結累計期間	第72期 第1四半期 連結累計期間	第71期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (百万円)	17,700	20,867	90,137
経常利益又は経常損失 ( ) (百万円)	37	262	6,370
当期純利益又は四半期純損失 ( ) (百万円)	182	143	3,317
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	332	257	3,874
純資産額 (百万円)	48,830	50,150	50,392
総資産額 (百万円)	120,113	123,051	118,234
1株当たり当期純利益金額又は 四半期純損失金額 ( ) (円)	2.31	1.86	42.47
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)			
自己資本比率 (%)	39.77	39.84	41.76

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の事業の内容についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間における当社グループの事業環境は、欧州債務危機の再燃、新興国の経済成長の鈍化や円高、株価低迷の長期化の影響などもあり、先行き不透明な状況が続きました。

このような中、工業部門では、ポンプの不採算案件の影響もありましたが、オイル&ガス業界向けのLEWA製やLNG用のポンプ製品を中心に堅調に推移しました。医療部門では、本年1月に本格販売を開始した新型透析装置が順調に売上を伸ばし、業績に寄与しました。

この結果、受注高24,799百万円（対前年同四半期比11.9%増）、売上高20,867百万円（同17.9%増）と増収となり、利益面でも、円高による為替差損や株価低迷による保有株式の減損処理などがありましたが、営業利益573百万円（同155.6%増）、経常利益262百万円（前年同四半期は経常損失37百万円）、四半期純損失143百万円（前年同四半期は四半期純損失182百万円）となり、ほぼ計画どおりに推移しました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 工業部門

工業部門は、その取扱製品により、インダストリアル事業本部、精密機器事業本部および航空宇宙事業本部の3事業本部に区分しています。

##### <インダストリアル事業本部>

ポンプ部門は、オイル&ガス業界の活況が持続していることやクリーンエネルギー関連投資の活発化などを背景に、LEWAグループの業績が順調に推移しているほか国内外でLNG用ポンプの受注も好調でした。LEWAグループでは、受注の増加に伴う売上の確保に向け、懸案となっていた生産設備を強化しました。

水質調整システム部門は、原子力発電所の稼働停止による影響はありましたが、高収益、高効率を急ぐ火力発電所向け案件などがあり売上高は増加しました。

この結果、インダストリアル事業本部の受注高は10,469百万円（対前年同四半期比3.1%増）、売上高は8,006百万円（同21.6%増）となりました。

##### <精密機器事業本部>

粉体計測機器は、国内市場は一部地域で設備投資に慎重な動きが見られますが、昨年11月に日本ベル株を買収したことにより、受注高、売上高はともに増加しました。

電子部品製造装置は、電子部品市況の悪化を受け低迷していた受注に回復の兆しはあるものの受注高、売上高とも減少しました。

この結果、精密機器事業本部の受注高は1,439百万円（対前年同四半期比11.7%増）、売上高は1,015百万円（同13.5%減）となりました。

##### <航空宇宙事業本部>

航空機需要の堅調が続き、主力製品である逆噴射装置関連部品（カスケード、ブロッカードアなど）の出荷は静岡工場、ベトナム工場とも、ほぼ計画どおりに推移しました。新規製品の需要拡大に対応したベトナム工場の設備拡張も、今年末の完成に向け予定どおり進んでいます。

この結果、航空宇宙事業本部の受注高は1,213百万円（対前年同四半期比38.0%増）、売上高は1,215百万円（同37.7%増）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における工業部門の受注高は13,122百万円（対前年同四半期比6.5%増）、売上高は10,237百万円（同18.5%増）、セグメント利益（営業利益）は234百万円（同40.7%減）となりました。

## 医療部門

### <メディカル事業本部>

主力の国内透析装置は、本年1月から本格的に販売を開始した新型自動化対応装置が医療施設の省力化ニーズに応えて順調に売上を伸ばし、業績は大幅な改善傾向にあります。消耗品では血液回路が拡大する一方、ダイアライザーの販売は横這いとなっています。

海外では、円高の影響もあり南米や東南アジアでは低調でしたが、ドイツを中心とした欧州や中国では装置販売が概ね順調でした。なお、中国合弁会社における血液透析装置の生産、販売の認可取得は今秋になる見込みです。

この結果、当第1四半期連結累計期間における医療部門の受注高は11,677百万円（対前年同四半期期比18.8%増）、売上高は10,630百万円（同17.3%増）、セグメント利益（営業利益）は1,218百万円（同76.5%増）となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間の資産合計は123,051百万円となり、前連結会計年度に比べて4,816百万円増加しています。現金及び預金や仕掛品の増加が主な要因です。

当第1四半期連結会計期間の負債合計は72,900百万円となり、前連結会計年度に比べて5,058百万円増加しています。短期借入金の増加が主な要因です。

当第1四半期連結会計期間の純資産合計は50,150百万円となり、前連結会計年度に比べて242百万円減少しています。利益剰余金の減少が主な要因です。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等は次のとおりであります。

#### 基本方針の内容

- ）当社の支配形態は、企業価値の向上と株主共同の利益を確保するため、株式市場における自由かつ公正な取引を通じて構成される株主の意思に基づき決定されるものとします。
- ）短期的な利益や一部の株主の利益を優先する動きが生ずる場合など当社の企業価値と株主共同の利益が損なわれる恐れが生じる可能性に備え、定款の定めに基づき、いわゆる買収防衛策を導入しておくこととします。

#### 当社の取り組みの具体的内容

- ）中長期的方針のもと、事業のグローバル化、戦略的な事業展開、生産性向上、開発強化などに取り組み、企業価値と株主共同の利益の向上に努めます。
- ）基本方針における買収防衛策については株主の意思を尊重するため、「株式の大規模な取得に対する防衛に関する規則」を株主総会の決議を経て制定するものとします。当該規則は、防衛策の発動を含む対処策の決定にあたっては、外部の有識者、社外取締役及び社外監査役で構成する独立委員会による勧告を最大限に尊重し、判断の客観性と独立性を確保するものとします。

#### 当社の取り組みに対する取締役会の判断とその理由

当社取締役会は、前記の取り組みについて、合理的かつ妥当な内容であって、前記の基本方針に沿っており、したがって当社の株主の共同の利益を損なうものではなく、かつ当社役員の地位の維持を目的とするものではないと判断しています。

### (4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は298百万円であります。

### (5) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、連結会社又は提出会社の従業員数の著しい増減はありません。

### (6) 生産、受注及び販売の実績

当第1四半期連結累計期間において、生産、受注及び販売の実績の著しい増減はありません。

### (7) 主要な設備

当第1四半期連結累計期間において、主要な設備の著しい変動及び主要な設備の前連結会計年度末における計画の著しい変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	249,500,000
計	249,500,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	80,286,464	80,286,464	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株です。
計	80,286,464	80,286,464		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年6月30日		80,286		6,544		10,700

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,133,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 76,664,000	76,664	
単元未満株式	普通株式 489,464		
発行済株式総数	80,286,464		
総株主の議決権		76,664	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式が216株含まれております。

【自己株式等】

平成24年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日機装株式会社	東京都渋谷区恵比寿 4 - 20 - 3	3,133,000		3,133,000	3.90
計		3,133,000		3,133,000	3.90

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。



1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	13,817	19,010
受取手形及び売掛金	30,434	27,901
商品及び製品	4,856	4,876
仕掛品	4,759	6,969
原材料及び貯蔵品	6,665	6,979
繰延税金資産	1,283	1,293
未収還付法人税等	-	50
その他	1,616	1,658
貸倒引当金	461	507
流動資産合計	62,971	68,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	10,289	10,460
機械装置及び運搬具（純額）	2,696	3,011
土地	4,081	4,133
リース資産（純額）	155	161
建設仮勘定	361	761
その他（純額）	1,348	1,321
有形固定資産合計	18,933	19,850
無形固定資産		
のれん	23,259	23,253
特許権	233	249
電話加入権	43	43
リース資産	48	79
その他	1,592	1,709
無形固定資産合計	25,176	25,334
投資その他の資産		
投資有価証券	9,518	8,020
長期貸付金	2	3
繰延税金資産	192	188
破産更生債権等	21	24
前払年金費用	349	291
その他	1,087	1,128
貸倒引当金	20	23
投資その他の資産合計	11,151	9,633
固定資産合計	55,262	54,818
資産合計	118,234	123,051

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,621	12,615
短期借入金	6,867	12,074
1年内償還予定の社債	6,000	6,000
1年内返済予定の長期借入金	4,046	4,740
リース債務	82	88
未払金	1,819	2,109
未払消費税等	143	77
未払法人税等	1,886	641
未払費用	1,275	1,501
賞与引当金	1,615	787
役員賞与引当金	47	11
設備関係支払手形	36	4
その他	2,042	3,011
流動負債合計	38,485	43,664
固定負債		
長期借入金	27,418	27,480
リース債務	129	161
繰延税金負債	1,155	876
退職給付引当金	368	434
役員退職慰労引当金	159	159
長期預り保証金	12	12
その他	110	110
固定負債合計	29,355	29,236
負債合計	67,841	72,900
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,544	6,544
資本剰余金	10,700	10,700
利益剰余金	34,619	34,013
自己株式	2,276	2,278
株主資本合計	49,587	48,979
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,658	1,154
為替換算調整勘定	1,869	1,104
その他の包括利益累計額合計	210	49
少数株主持分	1,016	1,121
純資産合計	50,392	50,150
負債純資産合計	118,234	123,051

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	17,700	20,867
売上原価	11,691	14,183
売上総利益	6,008	6,684
販売費及び一般管理費	5,784	6,111
営業利益	224	573
営業外収益		
受取利息	8	13
受取配当金	135	136
持分法による投資利益	-	12
受取賃貸料	39	38
その他	74	99
営業外収益合計	257	301
営業外費用		
支払利息	183	214
持分法による投資損失	2	-
為替差損	267	382
その他	64	14
営業外費用合計	519	612
経常利益又は経常損失( )	37	262
特別利益		
固定資産売却益	19	32
特別利益合計	19	32
特別損失		
固定資産除却損	0	2
投資有価証券評価損	159	222
ゴルフ会員権評価損	-	2
システム移行関連費用	-	50
特別損失合計	160	277
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	178	18
法人税等	51	102
少数株主損益調整前四半期純損失( )	127	84
少数株主利益	55	59
四半期純損失( )	182	143

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	127	84
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	207	504
為替換算調整勘定	224	800
持分法適用会社に対する持分相当額	27	46
その他の包括利益合計	459	341
四半期包括利益	332	257
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	259	117
少数株主に係る四半期包括利益	72	139

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
連結の範囲の重要な変更 当第1四半期連結累計期間より、重要性が増したため、創光科学株式会社を連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 なお、この変更による、当第1四半期連結累計期間の損益に与える影響は、軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
税金費用の計算 当社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。 ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
受取手形	633百万円	726百万円
支払手形	15 "	24 "

(四半期連結損益計算書関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

当社グループでは工業部門において、製品納期の時期が第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中する特性があるため、第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間の売上高は、第1四半期連結会計期間及び第3四半期連結会計期間の売上高に比べ、多くなる傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
減価償却費	629百万円	637百万円
のれんの償却額	362 "	361 "

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年5月19日 取締役会	普通株式	利益剰余金	475	6.00	平成23年3月31日	平成23年6月7日

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年5月17日 取締役会	普通株式	利益剰余金	462	6.00	平成24年3月31日	平成24年6月5日

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	工業部門	医療部門			
売上高					
外部顧客への売上高	8,639	9,060	17,700		17,700
セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	8,639	9,060	17,700		17,700
セグメント利益	394	690	1,084	860	224

(注) 1 セグメント利益の調整額 860百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	工業部門	医療部門			
売上高					
外部顧客への売上高	10,237	10,630	20,867		20,867
セグメント間の内部売上高又は振替高					
計	10,237	10,630	20,867		20,867
セグメント利益	234	1,218	1,452	878	573

(注) 1 セグメント利益の調整額 878百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行なっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	2円31銭	1円86銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	182	143
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る 四半期純損失金額(百万円)	182	143
普通株式の期中平均株式数(千株)	79,265	77,151

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年5月17日開催の取締役会において、平成24年3月31日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額 462百万円  
1株当たりの金額 6円00銭  
支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成24年6月5日



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年 8月 7日

日機装株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 村上 眞 治

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 鈴木 泰 司

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日機装株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日機装株式会社及び連結子会社の平成24年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。